

# 社会科学学習指導案

日 時 2009年11月25日(水)  
 児 童 名寄市立名寄小学校  
 3年1組 39名  
 指導者 教諭 佐藤明香  
 場 所 3年1組教室

## 1 単元名「調べよう～物をつくる仕事」(工場のひみつ探検たい)

### ◆児童の実態◆

- ①社会科は好き?嫌い?
- ・好き 18名
  - ・どちらかというとき 17名
  - ・嫌い 0名
- ②社会科の好きなおところ
- ・町探検がたのしかったから
  - ・市役所の屋上が楽しかったから
  - ・地図にまとめるのが楽しかったから
- ③名寄市にはどんな工場がある?
- ・はい 27名
 

紙の工場	23名
かまぼこの工場	10名
パンの工場	2名
  - ・いいえ 8名
- ④名寄市にある工場で知っていることを書いてください。
- ・紙や画用紙を作っている。17名
  - ・段ボールを作っている。8名
  - ・トイレットペーパーを作っている。8名
  - ・夜中に仕事をしている人がいる。1名

## 2 子どもの実態と社会科で目指す子ども像

名寄市では、基幹産業である農業の他、林業も盛んである。これら第1次産業を生かして、「もち米工場」や「製紙工場」、三方の海から新鮮な魚を仕入れることのできる利点を生かした「かまぼこ工場」など、様々な工場がある。

前単元の学習「まち探検をしよう」では、名寄市周辺を散策し、市役所や建物の場所などを把握する活動を通して、主体的に地図を作成することができた。「探検が楽しい」、「地図にまとめるのが楽しい」など社会科が好きになった様子がうかがえる。しかし、「建物があつた」などの気付きだけにとどまり、うまくまとめたり、まとめた結果を交流し合ったりすることができていなかった。そこで本単元では、名寄市の工場で作られている製品を調べる活動を行う。どのような仕組みで製品ができているのか、製品作りにはどのような苦労があるのか、よりよい製品を作るためにどのような努力をしているのかなどを共感的に理解させることで、子どもと地域をつなぐきっかけにしたいと考えた。

単元の大きな柱は、『工場見学や取材を通して、製造過程や種類、出荷先など、物を作る上で必要な内容を調べ、働いている人の苦労や願いを知ることができるようにすること』・『働いている人々の工夫や努力によって私たちの生活が支えられていることに気付くとともに、地域社会と自分がかかわっていることを実感すること』である。

本学級の児童は、社会科としての取材は、今回が初めてである。したがって、本単元では、取材する基礎・基本を押さえるために調べる内容を定める。その後、調べた結果をまとめ、交流する活動を行うことによって、地域で働いている人々の営みや願いに気付き、さらに生産活動と自分たちの暮らしの結びつきに目を向け、地域を身近に感じさせたい。

<b>3年生の社会科で目指す子ども像</b>	地域社会の中で、より良い生活を作り出そうと努力している人々の営みを見つめ、その良さを知り、楽しんで学習する子ども
<b>本単元で目指す子ども像</b>	名寄市にある工場について関心を持ち、効果的に調べたり、わかったことをまとめたりする活動を通して、地域の人々の生きがいやこだわりに関心し、地域を身近に感じる子ども

### 3 研究の視点との関わり

#### (1) 人間の営みに絞り込む教材化

名寄市は周囲を山々に囲まれた盆地地帯に位置し、市全体を見渡すと、稲作や畑作を行う農業が盛んな地域である。特産物である「もち米工場」や材木を利用した「製紙工場」など、市内には様々な工場がある。また、名寄市は三方の海（宗谷・日本海・オホーツク海）から魚を新鮮に仕入れることができるという利点があり、海沿いでなくてもそれらを加工する「かまぼこ工場」もある。

本単元では、これらの工場、工場で働く人々の営みについて情報を収集し、まとめ、交流し合う活動を行う。その中で、働く人々の工夫や願い、こだわりに気付き、共感的に理解する態度を育てると共に、名寄市を身近に感じさせることをねらった。

#### ◆学習指導要領 目標と内容◆

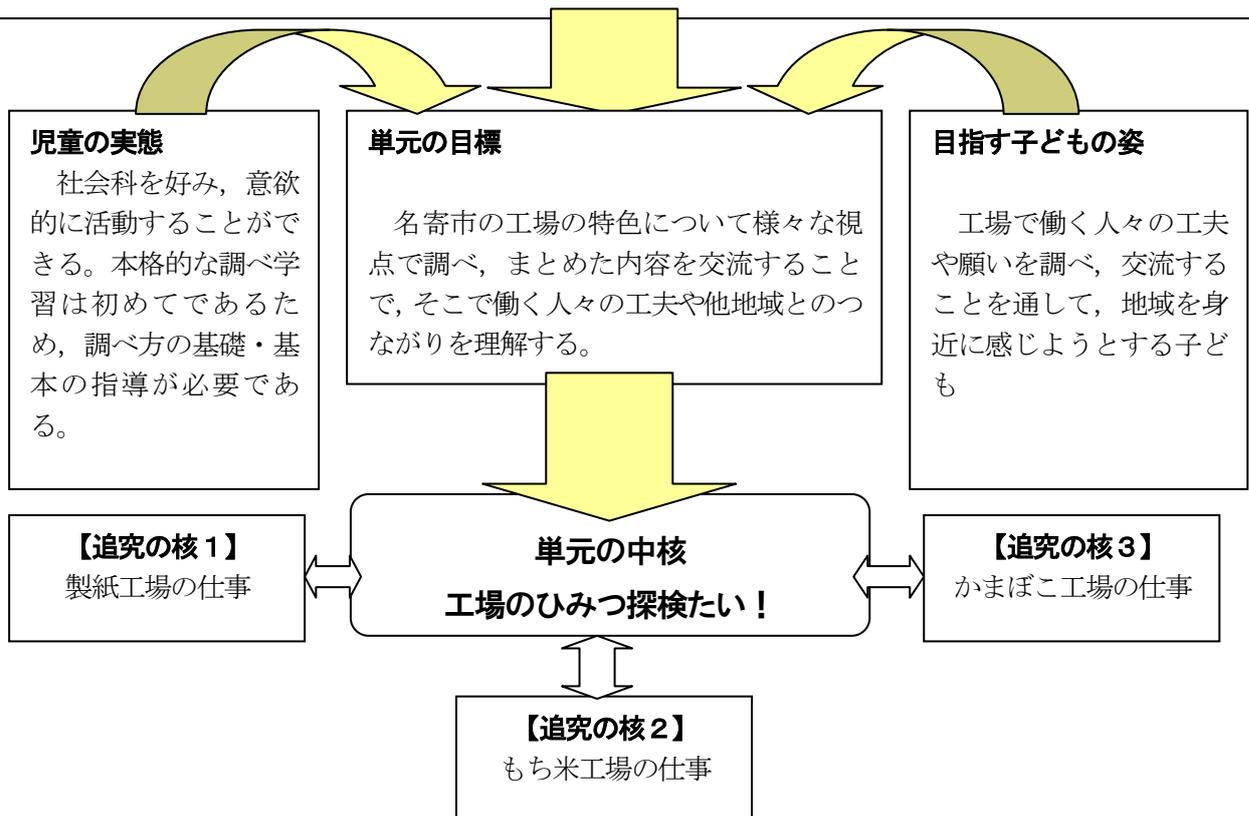
目標 (1) 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。

内容 (2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

- ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること
- イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特徴及び国内の他地域などのかかわり

#### ◆定着させたい基礎的・基本的な内容◆

- ① 地域の工場で働く人々の工夫や願いを見学やインタビューをしながら追究すること
- ② 調べたことをノートに箇条書きにしたり、絵を使ったりして書き表すこと
- ③ 自分達が調べたことを友達にわかりやすくまとめ、伝えること
- ④ 地域のものをつくる仕事には、国内の他地域とのかかわりがあることに気づくこと



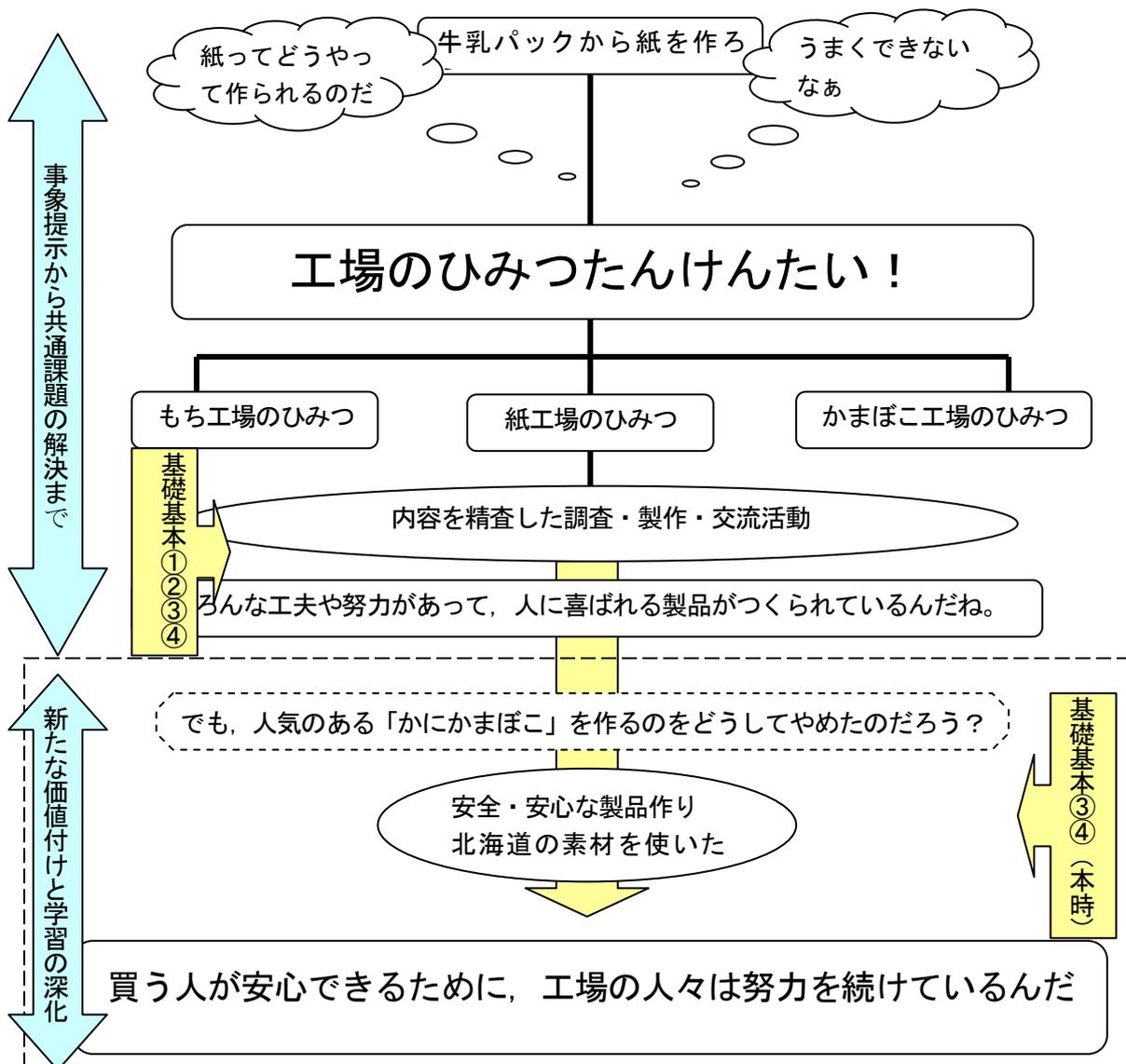
(2) 社会的事象と自分とのかかわりを深め、学びを自分ごととする学習の構成

本単元では、名寄市の工場について学習していくことになる。子どもにとっては、学校の近くや、市街地の中に工場があり、普段目にすることができる事象である。しかしながら、工場の生産活動と自分たちの日常生活との関わりが薄く。それぞれの事象を自分のこととしてとらえ、意欲的に課題を追究するためには工夫する必要があると考えた。

名寄市には様々な業種の工場が存在する。それぞれ地域の特性を生かして工夫された生産活動をおこなっており、道内だけでなく日本の広い地域とつながりをもっている。そこで、名寄市の代表的な工場の様子を調べることを中核に据えることにした。それぞれの作り方、作られている種類、働いている人々の苦労や願いを取材したりまとめたりすることにより、普段何気なく見ている工場を身近に感じることができると考えた。

単元の終末には「かにかまくん」を視点の変換場面に取り上げる。子どもたちは様々な製品の中で売れ筋である「かにかまくん」の生産を中止したことを知る。蟹は仕入れの仕組み上、生産地が正確に把握できないという事実を提示し、かまぼこ工場働く人々が消費者に「安心・安全」な製品を届けたいという願いや、「道産素材」に誇りをもって生産していることに気付かせる。

これらの事象を取り上げることによって、子どもたちが工場働く人々の願いや思いを共感的に理解し、名寄市の産業を身近に感じることができると考えている。



### (3) 社会を見つめ、関係を築く社会科授業の評価

#### ①社会の一員としての目覚めを引き出し、地域のよさを認識する場の設定

風連地区には道の駅の一角にもちの販売店が設置され、市内中心部には製紙工場の煙突が見える名寄市。子どもにとっては見慣れた風景であるが、自分たちの生活との接点は少なく、そこに従事する人々の営みを感じることはできない。

そこで単元のはじめに、給食で毎日飲んでいいる牛乳のパックから紙を作る活動を設定する。紙を作るためにかかる労力や、自分たちのイメージ通りの紙がうまく作ることができないことを体験させる。また、「赤福」にも使われているもち米を紹介したり、給食で食べた事のある「たこボール」を紹介したりすることを通して、驚きや関心を引き出し、名寄の工場ではどのようにして製品を作っているのかという追究エネルギーを高めることができると考えた。

#### ②児童の実態に重きを置いた単元の構成

本学級の児童は3年生になり、初めて社会科の授業に触れた。地域を探検したり、市役所の屋上から町を眺めたり、調べたことをまとめたりなどの活動が楽しかったと感じている児童が多い。

しかし、導入期であるため、視点を絞った調べ方や、交流活動に生きるようなまとめ方を身に付けることがまだできていない。結果として、調べたことを羅列したり、模造紙に表記したりするなどに停まっているのが現状である。

そこで本単元では、調べ方の基本や、充実した調査結果の交流活動を行えるようにするために、教師側で視点を絞って調査・まとめをさせるように配慮した。

具体的には調査では①作り方 ②製品の種類 ③出荷先 ④働く人々の喜びや苦勞・願いの4つに視点を絞って調査させる。

また、まとめる際には各グループに共通した書式を提示し、どの子どもでも効率的でわかりやすくまとめられるようにした。以上の活動を通すことで、社会科における基本的な調査、交流活動を身に付けることができると考えた。

#### ③既知の見方や考え方のズレを生み、新たな疑問を生む場の設定

児童は生活経験や今までの学習から、名寄市に工場が多数存在することは知っている。しかしながら自分の生活との関連は薄く、どのような製品が作られているのか、どのような人々が働いているのかについては知らない。本単元の学習を通して、工場の仕組みや働いている人々の営みに次第に気が付いていくことになる。あわせて、名寄市で生産されている物が、日本中に出荷されている事実を知ることによって、他地域とのつながりにも気付いていく。

単元の終末では、再びかまぼこ工場に視点をあて、「売れ筋の商品の生産をやめた」という事実を提示し、「なぜ？」という新たな疑問を生む場を設定する。今までの学習で、工場の人々がいろんな工夫や努力があって人に喜ばれる製品が作られていること事を知っている子どもたちは、調査結果を吟味したり、新たな資料をもとに考えたりすることで、かまぼこ工場の人々が、安心・安全な製品作りを徹底していることや、北海道の工場として道産素材にこだわっていることに気付く。その気付きから、工場働く人々の思いや願いを共感的に理解させる。

今まで漠然と見ていた工場に親しみをもち、自分たちの住む名寄市に愛着をもたせることができると考えた。

4 単元の指導と評価規準（※紙作りの活動は「総合的な学習の時間」から2時間）

【本時 17/17】

	学習内容	主な学習活動	教師の働きかけ	評価基準
1	事象との出会い	名寄市にある工場の写真をみて、気付いたことを出し合い、共通課題を設定する。	子どもにとって身近な製品や他地域とつながりのある製品を提示し、工場についての関心を高める。	<b>関心</b> 製品を見たり、工場の写真を見たりしながら、工場について知りたいという気持ちをもつことができる。 (発言・ワークシート)
2 3 4 5	課題設定	調べてみたい工場を決め、見学内容や質問内容を話し合い解決に向けての見通しをたてる。	調べたいことを明確にさせ、課題解決の方法を助言する。	<b>思考</b> 名寄市の工場についての疑問や知りたいことを見つけることができる。 (発言・ノート)
6 7 8	各工場の見学	各工場に分かれて計画に沿って見学をする。	計画に沿って調べたいことが確実に解決されるように助言をする。	<b>関心</b> 興味深く見学活動を進め、気が付いたことや疑問を伝えよとしたり、記録しようとしていたりしている。 (発言・ワークシート)
9 10 11 12 13	追究・解決・調査・製作	見学してわかったことや、感じたことをグループごとにまとめる。	より、わかりやすいまとめとなるように絵や図、写真などを用いるようにする。	<b>関心</b> 課題解決のために進んでまとめようとしている。 (行動観察) <b>思考</b> 調べてきたことをもとに、工場で働く人々の働きや願いを考えることができる。 (発言・作品) <b>技能</b> 調べ活動をもとに絵や図、写真を用いてまとめることができる。(作品・発言・ノート)
14 15 16	発表 意見交流 課題解決	まとめたことを発表し合い、名寄市の工場についてわかったことや気づいたことを話し合う。	自分の気づきを記録できるようにワークシートを用意する。	<b>技能</b> 調べたことをわかりやすく発表することができる。 (発言・作品) <b>理解</b> 工場で働く人々が、よりよい製品を作るために工夫や努力を重ねていることがわかる。 (ワークシート)
17	意見交流 発展・深化	「かにかまぼこ」が作られなくなった理由を考え、かまぼこ工場で働く人々の願	作られなくなった理由を既習事項を活用させながら思考させたり、VTRやアン	<b>思考</b> 今まで学習したことを基にかにかまぼこが作られなくなった理由を考えることができる。(ワーク

		いや思いに対する理解を深める。	ケートを活用したりすることで生産者と消費者の願いに気付かせる。	シート) 理解かまぼこ工場働く人々が、お客さんに安全・安心な製品を作るためにこだわりをもっていることがわかる。  (発言・ノート)
--	--	-----------------	---------------------------------	--

## 5 本時の学習

### (1) 本時の目標

「かにかまくん」が作られなくなった理由を考え、かまぼこ工場働く人々の願いや思いに対する理解を深めることができる。

### (2) 具体的な手だて

「かにかまくん」の生産をやめたわけを、観点ごとに調査した結果や工場の方のインタビューVTRなどを通して考えさせる。また、工場の人々の願いと保護者のアンケートの結果を対比させながら、生産者と消費者がどのような製品を望んでいるのか気付かせる。

子どもの活動と思考の流れ	教師の支援と評価	支援が必要な子への手だて
<p>○前時までの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうして?</li> <li>・ 売れているのに</li> </ul>	<p>○発表物を用いながら、前時までの学習の流れをふり返らせる。</p> <p>○資料を提示し、「かにかまぼこ」の生産をやめたことを伝える。(昔と今のカタログを比較させる)</p>	<p>○カタログの相違点に着目させることで、意欲を高めるようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">なぜ、「かにかまくん」を作るのをやめたのだろう？</div>		
<p>○個人で理由を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蟹が捕れなくなった。</li> <li>・ 作り方が難しい</li> <li>・ 製品の数が多すぎる</li> <li>・ たくさん作るのが難しい</li> <li>・ 作るのが大変</li> </ul> <p>○お互いの考えを知り、理由を絞る。</p> <p>○生産をやめた理由を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蟹はどこで捕れたかがわからないことがあるんだね。</li> <li>・ 安心できる材料で作りたいんだね。</li> </ul> <p>○消費者側の願いを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全なものがいいんだね。</li> <li>・ 安い物もいいけどわからないのはいやなんだね。</li> </ul> <p>○道産品にこだわりをもって生産をしていることに気付く。</p>	<p>○4つの観点から予想させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①原材料や作り方</li> <li>②製品の種類</li> <li>③出荷先</li> <li>④苦労や願い</li> </ol> <p>○予想を交流させる。</p> <p>○工場働く人のVTRを提示する。</p> <p>○保護者のアンケートを提示する。</p> <p>○工場の方のVTRを提示する。</p>	<p>○これまでの調査結果や発表物にふり返らせながら考えるように助言する。</p> <p>○予想を立てられない場合は誰の考えに近いのか(似ているのか)を確認する。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場の人も安全なかまぼこ作りをしたいだね。</li> <li>・北海道を大切にしてくだね。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <p>安心・安全でおいしいかまぼこをたべてほしいから</p> </div>	<p>○感想が書けない場合は工場の方のVTRの中の発言をふり返らせる。</p>
	<p>○学習のまとめを書かせ、感想を発表させる。</p>	